



今後の土木学会の 活動の進め方



磯部 雅彦

土木学会 第102代会長

土

木学会の創立100周年記念事業として、「社会

と土木の100年ビジョン」および「土木学会創立100周年宣言」を昨年11月に発表しました。「100年ビジョン」は土木学会の過去100年を振り返り、将来の100年の方向性を示したものです。そして、その核となる部分を抽出し宣言としたのが「100周年宣言」です。その目指す目標は「あらゆる境界をひらき、持続可能な社会の礎を築く」ことです。

土木学会の創設期は近代化の始まりで、社会基盤の充実が至上命令でした。それに加えて現在は、地球の有限性の中で持続可能な社会を実現していくこと、その基盤を築くことが求められています。これを長期的に目指すべき方向を示す、北極星のようなものと位置づけ、そのため

に土木界、土木学会、土木技術者が今から行動すべき事柄を示しました。持続可能な社会の礎を築くためには、安全を確保し、地域・地球規模の環境問題を解決し、経済的活力を維持し、生活を豊かにしていかなければなりません。

他方で、ほぼ同時に「JSC E 2015」を策定しました。これは土木学会の2015年からの5年間の行動計画で、今回が4回目になります。その目標は「あらゆる境界をひらき、市民生活の質向上を目指す」ことであり、その重点課題は、原子力発電所事故を含む東日本大震災からの復興、インフラの維持・更新、地球規模の課題への対応、持続可能な都市経営・都市構造の再構築と、そのための環境整備にあります。これらは、「100年ビジョン」を具体的に実現するた



めの第一歩と位置づけられます。

さらに、具体的に第一歩を踏み出す活動は、まず土木学会の諸部門とそこの中にある委員会活動ということになります。加えて、社会安全、社会貢献、市民交流、国際交流をテーマとして行われた100周年事業をきっかけとして、今後も継続する活動もあります。さらには、東日本大震災、災害調査、国土強靱化、社会資本の維持管理、ダイバーシティ、土木広報、土木史等に関する調査研究が会長の下で行われています。これらの一連の流れが、100年ビジョンを実現し、将来の社会づくりに貢献することにつながります。この理解の下に、会員の皆さんがそれぞれの場においてご尽力くださることを願っています。来るべき社会を明るくするということ、自信を持って進み、多くの

若い人びとが土木学会に参加するようになることを願っています。

土木学会は定款に定められた目的に賛同する会員の自発的な活動によって成り立っています。利潤を求めて、強制力も発動しながら効率的に活動しなければならぬ企業とは異なる面があります。会員の自発的活動がばらばらなものならず、学会組織としての大きな目的を達成するには、学会が方向性を示し、会員が納得して共有し、方向性を合わせて活動することが重要です。逆にそのような活動を通じ、会員の皆さんがよき仲間と交流を深められる場を提供することが、会員に対する土木学会の使命と意義であると考えています。皆さんのご理解とご協力を是非お願いいたします。